

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	社会科・公民科教育法 (Teaching Methodology in Civics)		授業コード	K002201
担当教員名	山岸 治男		科目ナンバリングコード	K20906
配当学年	3	開講期	通年	
必修・選択区分	教職必修	単位数	4	
履修上の注意または履修条件	教職を志望しており、通常のコミュニケーションが可能なこと。教職に期待される役割を習得する意欲を持つこと。			
受講心得	講義の中で教師に必要なミニマム(最低ライン)を求めるので、これに誠実に応え、自ら教職力を習得している実感を体感してください。			
教科書	学習指導要領、高等学校「現代社会」「政治・経済」「倫理」の各教科書			
参考文献及び指定図書	講義中に提示します。			
関連科目	免許取得に必要な全科目			

授業の目的	教師として高等学校「公民」を指導する力量を習得することです。そのために、必要な知識を自ら習得し、指導内容に関する資料を収集し、手順・時間配分・組み合わせる、などについて実践的能力を培います。
授業の概要	授業計画に即して講義を聴き、ノートし、調べ、資料作成し、意見交換し、発表し、授業案を作成し、模擬授業を行うなど多様な活動を組み合わせます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：教科教育と高等学校公民科の指導 高等学校で「現代社会」「倫理」「政治・経済」に関する内容を指導する目的について、諸法令及び学習指導要領などによって探り、公民科を指導する意義について考えます。	講義時に資料を配布することがあります。教科書は必ず持参してください。図書館を利用した予習を課することがあります。また、意見を求められた場合は声を出して要点が解るように発言してください。すぐ答えられない場合は「待ってください」「これについては分かりません」などと応答してください。受講生同士が相手の意見に敬意をもってよく聴くよう努めてください。
第2週：高等学校公民科の内容とその意義及び取扱い 公民科関連教科目として「現代社会」「倫理」「政治・経済」の概要を理解し、生徒にそれらの内容を指導する意義と取扱い上の留意点について考えます。	
第3週：公民科の内容と指導(1)－私たちの生きる社会 人が、単に自然人・感情移入しあう小集団の一員としてのみでなく、国民・市民等の公民として生きる意味と意義、公民が作る社会の意味と意義の指導について考えます。	
第4週：公民科の内容と指導(2)－現代社会と人間としての在り方生き方 人が公民になるにはどんな過程が必要か、家族や地域社会集団、職業集団などの意味を考え、社会性を育成しながら、かつ主体的に生きる方途の指導について考えます。	
第5週：公民科の内容と指導(3)－共に生きる社会を目指して	

時間と空間を共有しあう間柄の多数人々の中には、いろいろな立場の人がいることを理解し、立場の違いを超えて共存・共生する意味と意義の指導について考えます。

第6週：公民科の内容と指導(4)－現代に生きる自己の課題

現代社会に生きる公民であることと、自由で独立した人格を備えた個人であることの両立を自己の発達課題として認識・了解するための指導について考えます。

第7週：公民科の内容と指導(5)－人間としての在り方生き方

人はどう生きたらよいか、自然や社会、関係しあう他者、自己自身などとのいろいろな関係から探り、自己の生き方の指針を思索する指導について考えます。

第8週：公民科の内容と指導(6)－現代と倫理

私的欲求の追求と公的利益の実現が矛盾しあう場合や社会的公正性が問われる場合などを振り返り、現代社会における倫理の指導について考えます。

第9週：公民科の内容と指導(7)－現代の政治

日本及び国際社会に今日展開する政治の仕組み、民主主義と政治、政治と行政、政治と国民生活などに関する指導について考えます。

第10週：公民科の内容と指導(8)－現代の経済

日本及び国際社会に今日展開する経済の動向とその仕組みについて理解させ、経済の在り方と国民の生活、国際経済と国際問題の関係などの指導について考えます。

第11週：公民科の内容と指導(9)－現代社会の諸課題

国内外の政治・経済・教育・文化・生活などに関して今日問われる諸課題について理解し、解決に向けてどんな方法が可能であるかなどの指導について考えます。

第12週：社会科・公民科指導内容の特質と教育方法の検討

自分と社会の両方を理解し、社会構成員の一人である自覚を持つためにどんな指導が可能であるか、その具体的方法について考えます。

第13週：社会科・公民科の指導手順

公民科に関する3つの教科別に、指導手順について検討し、生徒の認識と実践意欲に対してどんな効果が期待できるかについて考えます。

第14週：社会科・公民科指導準備の実際

公民科に課する3つの教科別に、どんな指導準備が必要か、実際の場面を追体験しながら考えます。受講生全員による話し合いや発表なども行います。

第15週：社会科・公民科指導準備の評価・反省

前の講義を受け、指導準備について受講生各自が案を提出し、案について合評しながら指導準備について再度、より深く考えます。

第16週：前期分テスト

前半15回分の内容について試験を行います。実施に関する詳細は講義中に提示します。

第17週：公民科教育と公民科指導の意義

公民科教育の目的・目標を再度振り返り、公民科指導の意義について検討します。講義の後半で、授業で問われる声量、間合い、話す速度などについて受講生間で実演します。

第18週：社会生活の理解と公民科の指導

高校生になぜ公民分野を指導するのか、どの水準の指導が期待されるのかなどについて検討します。授業で問われる教師の立ち位置、机間巡視について実演します。

第19週：公民科の指導目標と授業

前回の講義内容をもとに、高等学校公民科の内容と指導目標について学習指導要領を参照して検討します。授業で問われる、生徒への注意の方法について実演します。

第20週：公民科授業の目的・目標・方法・評価などの相互関係

授業とは何か、公民科の指導目標などを通して検討します。授業と福祉支援との違い、授業と職務命令との違い、授業と行政指導との違いなどを参照に検討し実演します。

第21週：授業と学習の成り立ち

教師による指導、生徒による学習、の視点から授業と学習を心理・社会的側面から分析的に見つめる方法を検討します。教師役と生徒役を決め、実演しながら関係を習得します。

第22週：授業の展開過程における生徒・教師間の相互作用

前回の講義を想起しながら、指導と学習の過程を社会的相互作用として把握し、授業の在り方を検討します。授業で問われる「発問」の工夫について実演します。

第23週：教材解釈と認識の変容

指導の最終目標ともいえる認識の深化・変容のための教材解釈を、教師と生徒の両サイドに立って検討します。教師役と生徒役を決め、「発問」の共有・齟齬を実演します。

第24週：授業を通じた学習集団の形成

教室を、生徒にとって居心地良くかつ統制のとれた学習集団の場にする方法を検討します。相互評価、授業規則の遵守、集団探求などについて実演します。

第25週：公民科授業の組み立て・構成

前回講義を受け、公民科授業による学習集団作りについて検討します。集団学習に対する生徒間に「温度差」がある場合、その調節方法について実演しながら考えます。

第26週：公民科指導案の作成方法

公民科の内容をどのように授業に組み立てるか、指導案の作成に関し、いろいろな形式を検討します。教員間に指導案をめぐる異なる意見がある場合の調整方法を考えます。

第27週：「現代社会」の指導案作成と授業の実際

受講生同士の話し合いを通して「現代社会」の指導案を作成し、参加学生による模擬授業を行います。あわせて、授業評価を「合評」形式で行います。

第28週：「倫理」の指導案作成と授業の実際

受講生同士の話し合いを通して「倫理」の指導案を作成し、参加学生による模擬授業を行います。あわせて、授業評価を「合評」形式で行います。

第29週：「政治・経済」の指導案作成と授業の実際

受講生同士の話し合いを通して「政治・経済」の指導案を作成し、参加学生による模擬授業を行います。あわせて、授業評価を「合評」形式で行います。

第30週：授業の評価と反省

前回講義を振り返りながら、授業の評価と反省について検討し、評価と反省が教師及び生徒にとって重要な意味を持つ点について考えます。

第31週：生徒の変容と授業評価

生徒が変容するとはどうなることかについて、授業実践記録などを通して検討します。そのための教師の存在意義について意見交換し、各自の意見を報告しあいます。

第32週：後期分テスト

後半15回分の内容について試験を行います。実施に関する詳細は講義中に提示します。

授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
地域志向科目		

備考	受講生数に応じて、講義、演習、検索、記録・記述・分析、報告、模擬授業の実施など諸種の形式を組み合わせで行います。
-----------	--

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	受講生が、ノートを取りながら聴講する活動、演習に参加する態度、調査課題について諸資料を検索する活動、記述など文章化する活動、報告、模擬授業などを通して、それぞれの能力を受講前と比べて向上したと実感できることです。
【知識・理解】	知識や理解について毎時簡単な質問をする際に答えられるよう復習すること。
【技能・表現・コミュニケーション】	発問への応答、感想記録などにきちんと対応すること。
【思考・判断・創造】	聴く、話す、読む、書く、指導案を作成するなどの全活動に良習慣を習得するよう努力すること。

○成績評価基準(合計100点)

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点	10点	10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	20点	10点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点		20点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点			

(「人間力」について)

※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	ノートを丁寧に読んで下さい。授業案は深く考えて簡潔に表現して下さい。
発表・その他(無形成果)	参加態度として、積極性や意欲、受講生仲間への配慮や責任感、誠実さなど、教師として求められる資質を高めて下さい。